

☎ 教育課 生涯学習係  
☎ (83)7021

松田町には、いくつかの社会教育関係団体があります。今回は、生涯学習センターを活用して、社会教育活動を推進している2つの団体をご紹介します。

## 松田町の社会教育関係団体紹介

えほん

### 児童文化の会「ゆうゆう」

昭和59年、町教育委員会主催の「手作り絵本講座」から結成され、38年の実績のある団体です。現在は、生涯学習センターで毎週木曜日を基本として「おひざにだっこのおはなし会」を開催し、絵本や紙芝居を通して、幼児に物語の楽しさを伝えていきます。文部科学省大臣賞も受賞され、「ゆうゆうつたり和・話輪」をテーマに幼児から大人まで多くの皆さんに物語の楽しさを届けています。



### 白ゆり(茶道)



生涯学習センターの和室を活用して、「茶道」の活動を行っている団体です。現在は、「寺子屋まつだ」で、小学生を対象に「お茶」の体験、指導も行っています。「お茶」のお点前を覚えるよりも、まずは「お茶の心（おもてなしの心・おもいやりの心・感謝の心）」を伝えたいという思いでいます。

## 松田文化財探訪

### 続・町指定文化財とその周辺 その32

文化財保護委員 鈴木 一行

#### 延命寺(六) 観音堂と三仏③

江戸後期編纂の『新編相模国風土記稿』は聖観音菩薩立像・薬師如来立像に胎内仏があると記しています。今回の調査により、聖観音には馬頭観音が、薬師如来には寛永通宝三枚が納入されていたことが判明しました。また、明治初期の『皇国地誌』には「聖観音の胎内に陶器製の白衣観音と二通の文書が納められている」とあります。残念なことに文書は発見されませんでした。したが、『皇国地誌』には胎内文書の内容が載せられています。興味深い内容なのでその一部を紹介します。

元和2(1616)年4月に書かれた文書には、①白衣観音は大永元(1521)年に死去した「道場之うえ」と呼ばれた人物の守仏であつた事、②この人物は足利尊氏の子で初代鎌倉公方足利基氏の孫であろう、等という事が記されています。①に関しては大永元年の遠山直景寄進状(延命寺文書)で「道場

之うえ」の死を確認できます。しかし、②については疑問が残ります。なぜなら、基氏は1367年に28歳で死去しており、孫の満兼は1409年に32歳で、同じく孫の満貞は1439年に50歳で死んでいくからです。1521年に死去した「道場之うえ」を満兼・満貞と同時代と考えるのは無理があります。しかし、基氏の血を引く人物が松田の地にいたという伝承があつたことは事実なのです。

故島村俊介さんは「源頼朝の兄朝長が育つた松田亭は沢尻・中沢地区にあつた。それが後に時宗松田道場田福寺となり、観音堂はその一部」と述べておられました。時宗寺院は交通・交易の要衝に創建されました。松田道場の存在はわが町の性格の一端を教えてください。



お薬師様と副御住職